



第 375 号

令和3年7月8日発行

- 巻頭言
- 第72回全日中総会報告
- 地区だより・論文
- 文芸・さりながら
- 大会案内
- 地区研・事務局日誌

第72回全日本中学校長会総会



コロナ2年目に思う ～その先の道へ～

北海道中学校長会 副会長 木村佳子

北海道では、5月16日からの緊急事態宣言が6月20日まで延長されることとなった。何かの報道で、北海道は極めて厳しい感染状況の地域と感染が非常に少ない地域の二つを同時に抱え、北海道というひとくくりで対策や対応を考えることができない、新型コロナウイルス感染症の対策が非常に難しい地域であると説明されていた。この原稿を書いている時点で、札幌市は日本で最も感染者数が多い都市の一つである。このような状況になるなど、いったい誰が想像していたであろうか。

私たち校長は、「安全・安心」と「学びの保障」を最優先課題として掲げ、教育課程の再編成と改善に努め、着実に成果を上げてきた。また、今年度中学校で全面実施となった学習指導要領への理解を深め、主体的・対話的で深い学びの実現と社会に開かれた教育課程の実現を目指して準備を進めてきた。一方、感染症と闘う研究者たちは、数年はかかると目されてきた新型コロナウイルス感染症のワクチンを1年で実用化し、既に世界各国で接種が行われている。

「しかし」である。私の勤務校では、令和3年度の教育活動は、新しい生活様式に準拠しつつ「できること」を「より良い形で」と計画され、GIGAスクール構想にも

積極的に取り組みながら運営されていく予定であった。しかし、既に中止や延期の判断をしなければならなくなった行事や活動がたくさんある。北海道中学校長会もまた、同様である。会同して行われるはずであった理事研修会、総会・研修会等は、ことごとく書面開催やZoomを活用したWeb会議となった。そして、第63回北海道中学校長会研究大会宗谷・稚内大会は、日程を半日に縮小してオンラインで行う研究大会となった。

だが、下を向いてはいられない。今昔物語に描かれた受領は、崖から落ちた際にヒラタケを籠いっぱい摘み、「受領たるもの、倒れた所の土をつかめ」と揶揄された。が、そのたくましさ学ぶところもあるように思う。できなくなったことや形を変えて行われるようになったことで省力化や焦点化されたことは、たとえコロナが収束しても新たな改革として根付いていくかもしれない。学校の働き方改革の推進になることもあるだろう。変化に柔軟に対応することを学校経営において大切にしたい。

今年度の道中スローガンは「叡智を結集し 新時代へ向かう 道中」である。たくましく、しなやかに、ときにははしたたかに、「その先の道」へ進みたい。

第72回 全日本中学校 校長会総会

〔5月20日(木) 午前

○議事

- 1 令和2年度会務報告
- 2 令和2年度決算報告
- 3 令和3年度役員選出(会長及び道中関係分)

会長	東京都板橋区立中台中学校	宮澤 一則
副会長	千歳市立千歳中学校	三浦 利章
理事	札幌市立東月寒中学校	越田 公美
理事	札幌市立中央中学校	木村 佳子
理事	七飯町立大沼岳陽学校	檜山 聡
- 4 令和3年度活動方針
- 5 令和3年度予算
- 6 令和4年度第73回全日中研究協議会開催地

開催地 北海道札幌市
開催日 令和4年10月20日(木)、21日(金)
- 7 令和4年度第73回全日中研究協議会主題・分科会研究題
 - ・研究協議会主題
「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」
 - ・分科会研究題(担当地区)

第72回全日本中学校長会総会は、新型コロナウイルス拡大防止のため全日中会館及び各基地局、各役員・代議員の所属校にてWebを活用し、5月20日に開催された。会長挨拶の後、議事では下記の案件が審議、承認された。また、同日午後からは文部科学省初等中等教育局長の講演があり、その後、文部科学省行政説明が行われた。

- (1) 「カリキュラム・マネジメント」の推進(近畿)
 - (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現(九州)
 - (3) よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実(四国)
 - (4) 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実(東海北陸)
 - (5) 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実(東北)
 - (6) 自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実(関東甲信越)
 - (7) 多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成(中国)
 - (8) 学校と地域の連携・協働による「チーム学校」の実現(北海道)
- 8 宣言・決議
- 講演 「当面する初等中等教育上の諸課題」
講師 文部科学省初等中等教育局長 瀧本 寛 氏
- 文部科学省行政説明
説明 教育課程課・情報教育・外国語教育課・財務課
児童生徒課・スポーツ庁政策課学校体育室

宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ、新しい時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする教育関連法規、学習指導要領の趣旨を踏まえ、自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、教育の真価を示さなければならない。

全日本中学校長会は、教育改革の推進と当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、国民の負託に応えることを宣言する。

決 議

第72回総会に当たり、以下の事項を決議し、その実現を期する。

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育に努める。
- 一、全日中新教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな身体の育成に努める。
- 一、現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一、「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、教育水準の維持向上を期する。
- 一、学校が担うべき業務の明確化・適正化をはじめ、学校の組織運営体制の見直し、教職員の意識改革等により働き方改革を推進し、新しい時代に求められる学校づくりに向けリーダーシップを発揮する。
- 一、東日本大震災をはじめ災害等により被災した地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と全国各地区・各学校における防災教育の充実に努める。

令和3年5月20日

第72回 全日本中学校長会 Web 総会

第72回
全日本中学校
校長会総会

会長就任挨拶

全日本中学校長会 会長 宮澤一則氏



令和3年5月20日

ただいま、全日本中学校長会第45代会長の御承認いただきました、東京都板橋区立中台中学校長、宮澤一則でございます。新役員を代表いたしまして、一言御挨拶申し上げます。

本日ここに、皆様の御承認をいただき大役を仰せつかりましたことは、身に余る光栄でございます。各都道府県中学校長会が構成される全日本中学校長会の連合体の目的を達成するため、全力で会長の責務を果たす所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

全日本中学校長会のため、御尽力いただきました三田村裕会長を始め、副会長、理事、そして幹事の皆様、コロナ禍にあって対面での会議もできない1年でしたが、会の運営に御尽力をいただきましたこと心より感謝申し上げます。お疲れ様でございます。そして本当に有り難うございました。

会則によりますと全日本中学校長会の目的は「全国各都道府県中学校長会相互が緊密な協調を保ち、中学校教育の振興を図り、国家社会の発展に寄与すること」とあります。この目的を果たすため、全国の中学校長会との連携を一層強化し、課題や意見等を統合し、迅速な対応を進めていくことを責務と捉えております。これらを確実に遂行していくため、副会長を始め各理事の皆様、さらには全ての会員の皆様の会の運営に関わる御理解と御協力が必要です。是非とも皆様のお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ここで、全日本中学校長会が今後取り組むべき3点について述べさせていただきます。

1点目は、コロナ禍においても「学びを止めない」ということです。

一部の地域で発生した感染症が全世界へと広がり、新型コロナウイルスへの対応が日本でも始まり1年が経過としております。昨年は臨時休校や分散登校などの措置をとった学校も多数ありました。現在も新型コロナウイルス感染症の状況は、変異株の出現で悪化の一途をたどっております。このような中においても感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ち、生徒たちのたくましく生き抜く力を育てていきたいと考えております。つまり「学びを止めない」ということであり、そのためにも私たち全日中の活動を継続・発展させていくことが大切です。生徒と教職員の健康と安全の確保を最優先にしながらも、全面実施となる学習指導要領を柱に教育活動を進めていくということは、校長として責任重大なことです。一方では、働き方改革の推進のため学校行事や授業内容においても様々な配慮すべき事項があり、工夫・改善が求められるところです。これらについても全国の校長先生方と課題を共有し、対応策について情報交換を行い、ともに乗り越えていきたいと考えております。

行事などの教育課程の変更、精神的な影響を受けている生徒や教職員への対応、部活動実施に向けた工夫など多くの課題があると思いますが、生徒たちの明るい未来、さらには日本の将来のために全国の校長先生方との連携を強化し、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

「学びを止めないこと」、これは全日本中学校長会における喫緊の最重要課題です。この認識のもと、行政とも緊密に連携していきながら、全国の校長先生方の知恵と情熱を結集し、この困難な状況を乗り越えていくことに全力で取り組んでまいります。

2点目は、「全日中新教育ビジョン」の更なる推進です。

「全日中新教育ビジョン」が昨年5月に策定され、その後第4章を追加する形で完成いたしました。「全日中新教育ビジョン」の改訂については3年前から取り組み、情報技術の進歩や国際社会の急激な変化など、予測困難な社会においてたくましく生き抜き、明るい未来を創造する人間を育成するため、学校

が取り組むべき具体的な目標と目標実現のための事項を10の提言にまとめました。大きな特徴はカテゴリーごとに系統的に位置付け、全体のつながりが分かるようにまとめたことです。これにより、それぞれの課題に個別対応するだけでなく、関係諸機関との連携を図りながら総合的に対処することが可能になると考えております。

この「全日中新教育ビジョン」はそれぞれの校長が自らの言葉で自身のビジョンを学校内外に伝える際に一つの指針となるように示したものであり、学校経営の根幹として常に意識していただければと存じます。全国の校長先生方が、この「全日中新教育ビジョン」に基づいた学校経営を進め教育課題に取り組むことが、生徒たちの健全な成長につながり、日本の発展に寄与すると考えています。そして学校からの教育改革を推進し、よりよい学校教育がよりよい社会を創るという教育の目標を地域社会と共有できる体制を築きたいと考えています。「全日中新教育ビジョン」を全国の校長先生方とともに更に推進していくことに積極的に取り組んでまいります。

3点目は、中学校における教育改革の円滑な推進です。

今年の1月に文部科学省より「令和の日本型学校教育」が示されました。この中で新学習指導要領の着実な実施、学校における働き方改革の推進、GIGAスクール構想の実現などが課題としてあげられています。このように中学校教育にとって今年度は大きな変革の年となります。具体的には全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学びの実現」、さらには、「主体的・対話的で深い学び」などの教育内容の進展や「1人1台タブレット」や「デジタル教科書」の有効活用など、指導方法及び改善があります。一方、部活動の在り方や新規採用教員及び管理職の人材確保など、多くの課題も待ち受けています。

これらの教育改革を円滑に進めていく必要があり、全国の校長先生方の協力体制が不可欠です。そのためには全国の校長先生方の協力と各中学校長会と全日中との緊密な協調が重要となります。この「つながり」から、全国の中学校教育の実態や課題をまとめ、全日中の方向性を見いだしていきたいと考えております。

様々な課題について行政機関等から全日中に意見を求められることがあると思います。このようなときに全国の中学校長の総意として意見を述べ、全日中の取組を全国に発信してまいります。また、全国の校長先生方と課題を共有し、知恵を出し合いながら、円滑に教育改革を進めていくことに全力で取り組んでまいります。

以上、3点について述べさせていただきましたが、これらを進めるにあたっては、市区町村校長会と都道府県校長会、都道府県校長会と全日本中学校長会との強力なつながりがなくてはなりません。さらに各地区との連携が必要であり、今年度新たに副会長会を組織できるよう本総会で提案いたします。これらの双方向の協調こそが、「全国9千人以上の校長の叡智を結集すること、そして難局を乗り越えるために行政とも緊密に連携していくこと」に結びつくと思っております。9千人以上の校長の周りには、約20万人の教員、約290万人の生徒、さらにはその保護者がいることを常に意識し、精一杯取り組んでまいります。

結びになりますが、本会の充実に向け、これまでの歴代会長はじめ諸先輩方が築かれ継承されてこられたことを受け継ぎ「実践もあり理論もある有言実行の教育の実践的専門家集団」としての役割を果たすため、皆様とともに歩んでいくことをお誓い申し上げます。新役員代表としての会長の挨拶といたします。

第72回 全日本中学校 校長会総会

講演

当面する初等中等教育上の課題（要旨）

文部科学省初等中等教育局長 瀧本 寛氏



1 学校における新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症については予断を許さない状況が続いており、生徒や教職員への変異株の感染も増えてきているところであるが、基本的な感染症対策は従前と同様である。具体的には発熱等の風邪症状がある場合には登校しないこと（レベル2・3の地域では同居家族に風邪症状がある場合にも登校しないこと）、手洗い、咳エチケット、換気、通常の清掃活動の中でのポイントを絞った消毒等、及び、集団感染リスクへの対応（感染拡大リスクが高い「3つの密」を避ける、身体的距離の確保、十分な身体的距離がとれない場合のマスク着用等）等、感染の拡大には最大限に警戒をしていただきたい。文科省のHPには学校における感染症対策についての解説動画があるので参考にしてもらいたい。また、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化することが見込まれる中、感染症対策等の学校教育活動継続支援事業としての予算を措置しているので活用を検討していただきたい。

日本学校保健会が運用する「学校等欠席者・感染症情報システム」（小学校約66%、中学校約60%が加入）は感染症で欠席する児童生徒等の発生状況をリアルタイムで把握し、情報共有できるシステムである。各校長においては加入を検討していただきたい。

一定の期間、児童生徒がやむを得ず学校に登校できない場合、登校再開後の学習への円滑な接続に資することを目的に①同時双方向型のオンラインを活用した学習指導、②課題の配信・提出、教師による質疑応答及び児童生徒同士の意見交換をオンラインを活用して実施する学習指導等を実施したと校長が認める場合、「オンラインを活用した特例の授業」として指導要録に記録することが可能となったため、ICT環境を整備する等、非常時を想定した準備をしていただきたい。

2 学校における働き方改革について

コロナ禍ではあるが、働き方改革については継続して取り組んでいただきたい。令和4年度には働き方改革に関わる勤務実態調査を実施する予定であるので、各学校においては取組を進めてもらいたい。学校における働き方改革は、特効薬のない総力戦であるため、国・教育委員会・学校それぞれの立場において、取組を着実に推進し、教師が教師でなければできないことに全力投球できる環境を整えたいと考える。各校長においては既に様々な取組を行っていただいているところではあるが、例えば諸会議の精選、所掌の中身そのものの見直し等、一層の改革を進めてもらいたい。

文科省としても、学習指導員、スクール・サポート・スタッフ、中学校における部活動指導員の配置等、多様な外部人材が学校の教育活動に参画する取組を支援することで、学校教育活動の充実と働き方改革を実現するとともに、引き続き、新型コロナウイルス感染症にも対応できるよう取組を進めていく。特に中学校における働き方改革のポイントは部活動にあると考えている。スポーツ庁からのガイドラインでは土日のうちの1日は休養日としているので、もう1日を部活動指導員が対応することが実現できれば、中学校教師の週末に余裕をもたせることが可能となる。部活動指導員の確保等、課題は存在するが、引き続き取組を推進していく。

3 GIGAスクール構想の推進について

OECD/PISAが2018年に行った調査結果によると「日本の学校におけるICTの活用頻度」はOECD加盟国中において最下位であった。また、我が国の家庭におけるICTの利用状況はゲームやチャット等で高いものの、家庭学習では低かった。読解力に関しては高得点のグループに位置するが、前回より平均得点・順位が有意に低下しており、その原因の一つとして、PC画面上での長文読解の慣れなどの要因が複合的に影響

した可能性があると考えている。PCの整備状況は昨年3月末の時点の「4.9人に1台」から1年間ではほぼ「1人1台」まで達成できたところである。今後は全ての教師が1人1台端末を利活用した実践を行うこととなるが、昨年9月の段階で1人1台環境が整っていた自治体は約4%であり、多くの学校・教師にとって、パソコンルームから普段の教室での1人1台端末の“普段使い”は、初めての試みであると言える。そのための研修を支援する組織として、文部科学省に「GIGA StudX 推進チーム」を設置した。具体的には、教育活動において参考となる事例の発信、課題の共有等を通じて、全国の教育委員会・学校に対する指導面での支援活動を展開する。

デジタル教科書については今年度、学習者用デジタル教科書普及促進事業として、①学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業、②学習者用デジタル教科書のクラウド配信に関する実現可能性の検証、③学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究を推進し、児童生徒の学びの充実や障がい等による学習上の困難の低減に資するよう、学校現場におけるデジタル教科書の導入を促進していく。

各教科等の指導におけるICTの効果的な活用方法についての参考資料、動画等を文科省のHPに掲載しているので参考にしてもらいたい。

4 いじめ・児童虐待対応等について

いじめは決して許されないことであり、且つ、どの学校の子供にも起こり得る問題である。各学校はこれまで以上に早期発見に努め、子供を守り抜いてもらいたい。

昨年度の児童生徒の自殺者数が大きく増加している。各学校においては教育相談等を通して悩みを抱える生徒の早期発見に努めるとともに、SOSの出し方に関する教育を含めた自殺予防教育を実施する等により、児童生徒自身が心の危機に気づき、身近な信頼できる大人に相談できる力を培っていただきたい。

令和元年度における児童相談所への児童虐待相談対応件数は約19万件であり、平成11年度に比べて約17倍となっている。文科省のHPには、学校や教育委員会等の関係者が虐待と疑われる事案について迷いなく対応するための方法や留意事項についてまとめた手引き、及び、資料を掲載しているので、参考にしてもらいたい。

厚生労働省と文科省が実施したヤングケアラーの実態調査結果からは、家族の世話をしている生徒が一定数存在することが明らかになった。福祉分野の支援につなげるためにも各学校においては発見に努めていただきたい。

5 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中教審答申）について

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが重要である。そのためには全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けての取組に力を尽くしていただきたい。

6 新学習指導要領について

今年度から全面実施となった新学習指導要領には社会の変化や産業構造の変化に対応できる児童生徒の育成のための考えが込められており、特に「社会に開かれた教育課程」の理念の具現化は重要な柱の一つである。また、新学習指導要領の着実な実施のためには保護者、地域への説明も必要であり、そのためのリーフレット、動画を文科省のHPに掲載しているので参照していただきたい。

「子どもたちの未来に明かりを灯す校長会」を目指して

石狩・江別第一小 佐藤直己

石狩管内小中学校長会は、新会員14人(中3)を迎え、7市町村98人(中37)で今年度の活動をスタートした。本会は、教育改革の理念を踏まえ、「自立した人格」と「未来を切り拓く資質・能力」を育成する学校経営を目指し、学校力向上のための具体的な取組を推進している。コロナ禍での活動となるが、「子どもたちの未来に明かりを灯す校長会」をスローガンに、関係機関との連携も大切にしなが、石狩管内が一つになった教育を推進していく。

【活動方針】

- 1 信頼される学校経営、管内教育の安定と充実・発展
- 2 職能向上を目指す研修活動の推進と教職員の資質向上
- 3 教育諸課題の把握とその解決
- 4 教育諸条件の整備や福利厚生等の推進
- 5 組織の強化と実態に即した会務の推進
- 6 会員相互の交流活動の推進
- 7 ポストコロナ社会での子どもの学びの保障
- 8 令和3年度道小校長会研究大会石狩大会の成功に向け、組織の総力を挙げた大会運営

新たな未来を紡ぎ、よりよい社会を創る力を

札幌市・啓明中 須藤勝也

札幌市中学校長会は、23人の新しい仲間を迎え、中村邦彦会長の下、今年度の活動をスタートした。

札幌市は、目指す人間像を「自立した札幌人」とし「知・徳・体の調和のとれた育ち」「札幌らしい特色ある学校教育」等を学校教育の重点としている。

本会では今年度、国や本市の教育の方針・重点等を踏まえ、あわせて未曾有の新型コロナウイルス感染症対策を講じ、各学校におけるよりよい教育の実現を目指している。そして、令和4年度の日中北海道(札幌)大会に向けた準備を計画的に推進している。そのために「提案する校長会」「改革を進める校長会」を念頭におき、表題の研究主題の下、会の組織と機能を一層充実させながら、校長としての研さんと職能の向上を目指している。さらに、各校長が学校運営に自信をもって実践し、難局に互いに支え合えるよう「情報共有」と「協働支援」に重きを置いている。

【活動の重点】

- 1 校長会の組織・運営の強化と研修の充実
- 2 学校経営の改善と充実
- 3 学校経営の条件整備と教職員の待遇改善
- 4 教育関係機関や諸団体との連携強化

【研究活動】

共同研究基本主題『新たな未来を紡ぎ、よりよい社会を創る力を育む札幌市中学校教育』を掲げ、3か年継続研究の最終年度となる。

地区だより

連携を意識し、「一人一人の校長の力を結集する」後志小中学校長会

後志・余市東中 藪智樹

後志小中学校長会は、小学校長39人、中学校長24人、計63人で構成している。一人一人が明確な経営ビジョンをもつべく鋭い時代感覚を磨きながら、創意ある取組と組織の活性化を図っている。

保護者や地域社会の負託と信頼に応えるとともに、「一人一人の校長の力を結集する」を基本に後志教育の充実・発展に寄与しようと活動している。

【活動内容】

- 1 学校経営の充実
- 2 教育課程の充実
- 3 生徒指導・特別支援教育の充実
- 4 研究活動の充実
- 5 教職員の資質向上
- 6 教育諸条件の整備
- 7 教職員の処遇改善
- 8 校長会組織の強化と活動の充実

【活動の重点】

- 1 「生きる力」を育む「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善の推進
- 2 教頭・主幹教諭・ミドルリーダーの育成を目指した研修等の充実
- 3 教職員の法令遵守、服務規律の厳正な保持に向けた管理職研修の推進
- 4 町村教育委員会と校長会の連携強化

「先見性・自立」を継続し、小樽市に必要なリーダーシップを！

小樽市・望洋台中 伊藤仁弥

小樽市中学校長会は、小樽市が目指す教育の基本理念『主体的に学び 小樽の未来を創る 心豊かな人づくり』に基づき、研さんを積み重ね、着実に成果につなげている。世の中が混沌とする今こそ、校長には先見性と柔軟性、そしてネットワークの軽さが必須である。そしてとどまることなく、小樽の教育は次なるステージに進む必要がある。そのためには、予測困難な未来に向けて、テーマ「先見性・自立」を定め、活動を展開していく。

【重点目標】

- ①小中一貫教育の充実
- ②学校組織の機能化と人材育成
- ③業務改善の定着

【活動の具体】

- ①小樽市小中一貫教育5つの視点の確実な実施
分掌への位置づけ、定期的な連携・協働の実施
- ②教務主任の職務の明確化、及び邁進への環境整備
次代を担う人材の計画的・組織的育成
- ③具体的な取組の価値づけ、新たな働き方の構築
校務運営システムなどICT等を活用した業務の効率化

信頼される中学校教育の創造を目指し、 「知恵を結集し、さらに、前へ」

旭川市・明星中 工藤 亘

旭川市中学校長会は、林 欽一会長のもと、新会員6人（新採用3人）を迎え、27人の会員で新年度の活動を開始した。「知恵を結集し、さらに、前へ」を基本姿勢と定め、旭川市教育大綱の基本方針「主体的に学び力強く未来を拓く人づくり」の具現化のため、校長会組織の一層の活性化を図っている。教育改革の動向を見極めながら、会員相互の真摯な研さんと連携を図り、次のような運営方針を掲げ、中学校教育の充実・発展に努めている。

【運営方針】

- 1 旭川市民の願いや期待に応え、信頼される中学校教育を目指し会務の推進に努める。
- 2 中学校長としての使命を自覚し、時代の進展に対応する中学校教育の在り方を見極めるとともに、その充実・発展に努める。
- 3 教育改革の内容等を見極め、具体策をもって、主体的にその取組を進める。
- 4 旭川市教育委員会を始め、関係機関等と緊密に連携し、教育諸課題への適切な対応に努める。
- 5 校長としての資質向上を図る研修に努める。
- 6 会員相互の意思疎通を図り、活動の活性化・効率化に努める。

宗谷の風土に根ざし、変化の激しい時代を生き抜く力を確実に育む質の高い教育を目指して

宗谷・豊富中 畠山 博次

本年度、宗谷校長会は52人で活動を開始した。

本会は、結成以来「宗谷の風土に根ざした豊かな自然に育む子ども」というテーマを掲げ、社会の変化に伴う学校教育の諸課題を正面から受け止め、会員相互が研さんに励み管内教育の充実に努めてきた。本年度も管内全域で学校・家庭・地域が一体となり、活力ある学校づくりに全力で取り組む。

【運営方針】

- 1 保護者・地域の願いに応える学校経営の充実
- 2 会員相互の理解の深化と校長会活動の活性化による管内教育の充実・発展
- 3 関係機関・団体との連携による教育課題の解決

【活動の重点】

- 1 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善に努め、愛情と信頼に基づく活力ある学校経営の推進に努める。
- 2 研修活動を充実し、校長の職能向上と教職員の資質・能力の総合的な向上に努める。
- 3 関係機関・団体と連携し、教育諸条件の改善・整備と教育課題の解決に努める。
- 4 校長会の組織を強化し、活動の活性化を図る。

地区だより

檜山の教育 充実・発展のため～たくましい児童生徒の育成～

檜山・今金中 酒井 豊志

檜山校長会は、小学校20人、中学校10人合計30人で組織されている。「ふるさと檜山に誇りをもち、自己実現に向けて未来を切り拓く児童生徒」を育む学校経営の在り方を究明し、保護者や地域住民の負託と信頼に応えるため、自らの職責を自覚し、教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化、働き方改革の推進を目指している。

【活動の重点】

- 1 組織マネジメントを活かした活力ある学校経営の推進
- 2 「生きる力」を育む適切な教育課程の編成・実施・評価・改善
- 3 時代の変化に即した生徒指導や特別支援教育の組織的推進
- 4 教職員の資質・能力の総合的な向上
- 5 服務規律の厳正な保持
- 6 組織活動の活性化と充実
- 7 ミドルリーダーならびに管理職候補者の育成
- 8 防災教育と健康安全教育の充実
- 9 学校における「働き方改革」の推進（重点）

組織体制の見直し・充実により、管内教育課題に対して、全会員が一丸となって取り組む日高地区校長会

日高・荻伏中 鈴木 眞一

日高管内校長会は品田和輝会長のもと、7町41人の小中学校長で構成されている。信頼される学校づくりや確かな学力の育成に向けて、日高管内各小中学校の学校運営をより組織的にし、若い人材がよりよく育つ環境が図られるよう取組を進めている。

また、「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」の実現、学校における働き方改革に係る時間外勤務の縮減に向けた教職員の意識改革や校務の効率化等、様々な課題が山積されている。これらの課題に正対し、全会員が一丸となって課題解決を図り、管内教育の充実、発展を目指している。

【重点目標・内容】

日高管内の教育課題の達成のために、校長の職能向上を図りつつ、積極的に提言、発信、行動する日高地区校長会を実現する

- 1 新しい生活様式を踏まえた信頼と秩序に基づく学校経営の推進
- 2 社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善
- 3 教職員の資質・能力の向上と後継者育成
- 4 校長の研修活動による職能向上と組織体制の強化

小さな市の大きな挑戦 ～義務教育学校設立に向けての取組～

歌志内市立歌志内学園 織田靖雄

1 はじめに

「日本一人口が少ない市」である歌志内市で唯一の学校となり、空知管内で初めての義務教育学校である歌志内学園は、令和3年4月に開校した。歌志内市では市内に2校あった小学校が統合され、小中各1校体制となった平成22年より幼稚園を含めた連携教育を行ってきた経緯があり、比較的一貫教育を進める土壌はあった。しかし、校種が違う学校を一つにするには大変な苦労があった。そこで、小・中両校の校長として取り組んできたこれまで経緯の一端を紹介したい。

2 一貫教育の経緯

小学校が統合された当時、地域に開かれた学校としての教育課程編成が求められていたため、幼稚園も巻き込んで「幼小中一貫教育推進委員会」を立ち上げ、平成23年1回目の地域運動会を開催した。その後、当委員会では市教委と協力し「体力向上アプローチプログラム」を策定し、ダンスやスキーに外部講師を招聘した授業を実施したり、小学校には体育専科教員を配置したりするなど、幼稚園とともに体力向上を目指した取組を進めていった。一方、平成25年から幼稚園にALTが派遣され英語教育にも力を入れることとなったため、当委員会でも先進校視察や小・中学校の互いの授業を参加するなどの取組を計画的に行ってきた。

平成28年に「歌志内小学校」に赴任した私は、一貫教育の柱となっていた「地域運動会」「体力向上」「英語教育」の推進とともに、「英語」を基軸とした学校間連携、つまり小中一貫校への道を附託された。「英語」「体育」においては指導計画ができており、指導の系統性は図られていたが、担当教諭のみが取組を行っている状態で、他の教員の一貫教育への関心は非常に薄く、全体的な取組もほとんど行われていなかった。そこで私は、「組織編成」「意識変革」の2点で小中一貫校の設立という難敵に立ち向かうこととした。

3 一貫校への道のり

(1) 組織編成

それまで連携を推進してきた「幼小中一貫教育推進委員会」では幼稚園を含んでいるため、十分に機能させることができなかった。そこで平成29年に小中の教職員のみで構成し、推進委員会と連動する「小中一貫教育実施検討委員会」を立ち上

げた。検討委員会には「学習部会」「生活部会」「保体部会」「英語部会」の4部会を設置し、一貫校として系統性をもった指導を行うための柱づくりと、実践を行う牽引的な役割をもたせた。部員は小・中学校代表者と教頭により構成され、意見調整後各校での実践を行うという流れを作った。しかし、代表者の意識や校内での役割等が十分職員に浸透しなかったこと、小・中それぞれの教員の意識にかなりの温度差があったこともあり、物事の決定や実践するまでにかかなりの時間を要し、遅々として進まない状況が続いた。

(2) 意識改革

誰もが新しいことに取り組むのは少なからず拒否感をもつことは否めない。そこで、教職員の意識変革を促すことが取組を進めるための早道であると考え、細かい疑念に対しても丁寧に対応することを心がけ教職員一人一人との対話回数を増やした。その結果、小中一貫教育に理解を示す教職員が多くなり前向きな空気が流れるようになった。機を逃さず、「みんなで～をしましょう、やりませんか」という言葉に置き換えての提案をもちかけ、集団としての動きになるよう促した。すると今まで滞っていたのが嘘のように物事が動き始めた。

一方、教育委員会は今後の学校の適正配置を考えると、小学校において複式学級での学級編成が避けて通れない状況が喫緊に迫っていたことから、急遽、平成33(令和3)年度4月に義務教育学校を開校する計画に舵を切った。

平成31年4月に歌志内小学校より歌志内中学校に異動した私は、再び、義務教育学校設立に向けて走り始めることとなった。

4 義務教育学校として

取組期間が実質1年程度しかなかったため、トップダウン的に行ったが、一度動き出した組織はとて強く、そしてとどまることなく数々の課題をこなし、しっかりと要点を捉えた立案となっていた。

今年は、Try&Errorの年と位置づけ学校経営を行っているため、教職員は遠慮無く又自信をもって学校運営に参画し、絶えずCheck機能が働いている。

学校は組織で動いている。目的意識が一つになった集団の力こそが、児童生徒の力を発揮させ伸ばしていけるものと改めて感じている。

文芸

タイ焼きとタコ焼き

愛別町立愛別中学校 蟹谷正宏

2年ほど前、「子供を支える大人の心」という演題の講演を拝聴した。講師は、北海道教育大学札幌校の平野直己教授。およそ50人の参加者の大半は、臨床心理士やカウンセラーであり、学校の教員は私を含め数人程度だった。若干のアウェー感に伴う強めの緊張感を覚えながらの参加であった。表題の『タイ焼きとタコ焼き』は、講演の中で触れられていた、子供に対応する際の大人側の観点である。

タイ焼きは形が鯛であるだけで、本物の鯛を焼いたものではない。タイ焼きを買う客は、見た目でタイ焼きと判断して買っている。それに対し、タコ焼きの形はタコではない。中に本物のタコが入っている（と信じている）から買うのである。子供理解では、表に見える行動の善悪（タイ焼き的観点）も大切だが、その行動を引き起こした背景となる「心」がその子供の中にあると信じていること（タコ焼き的観点）も大切。

子供を理解しようとし続ける姿勢や態度＝タコ焼き的観点は、通常、冷静な大人は、十分に機能している。ただ、「危機的状況に陥った場合」・「ストレスが高まった場合」・「強い興奮状態の場合」は、この

観点が機能しなくなり、自分の内的現実（ストレス）の原因がそのまま外的現実だと思い込んでしまう。この状態に陥りやすい大人が、家族や教師である。両者に共通するのは「愛情」。愛情があるからこそ、家族や教師は子供に期待する。しかし、子供がそれに反する行動をとると、「ストレスが高まった場合」となり、タコ焼き的観点で子供を見ることができなくなる。そして、大人の行動化（ひどい場合は暴力）によって子供を変えようとする。これが“虐待”のメカニズムである。

脳科学の視点も交えて説明され、たいへん分かりやすい内容だったため、職員向けの校長通信に毎年使わせていただいている。表出した事象を見る目とその子の中の「本物の心」を見る目（見ようとする姿勢）の両方が大切であること。ともすれば失われやすい「タコ焼き的観点」の方が重要である…と。反応を寄せてくる職員からは、「分かりやすいです」という好反応が多い。今、反応のない職員の中の「本物の心」を見ようとしている私がいる。

文芸

ひまわりのように

むかわ町立鶴川中学校 広田智人

昨年、夏のある日、町内の公園横の敷地に大きなひまわりが数本咲いている景色を見ました。ひまわりは「向日葵」と書かれるとおり、大きな花を太陽に向かって咲き誇る夏の花です。調べてみますと、ひまわりは北アメリカが原産地で、1500年代中頃にスペインに持ち帰られ、その後中国を経て日本には1660年頃渡ってきたとのこと。当初は食料油用として植えられたひまわりも、今では観賞用も兼ねた人気のひまわり畑が各地にあり、立派に咲いているその姿は、見ている多くの人たちを明るい気持ちにさせていることと思います。

そこで、その理由を考えました。「花の色が明るい黄色だから」「花の形が太陽に似ているから」どちらも正解だと思います。でも、一番の理由は、「夏の厳しい日差しに向かって強く元気に咲いているから」ではないでしょうか。太陽もそれに応えるかのようにいつもまぶしく照らしています。

昔の子供たちは、悪いことを考えたら、周りの大人に「お天道様が見ているよ」など言われたようです。これは、誰も見ていなくても自分自身が見ている、つ

まり、自分の良心に問いかけている言葉です。正しい行動がとれるよう常に良心に問いかけなさいという教えです。その自分の良心でもある太陽に向かって、明るく咲き続けるひまわりに人は自分自身を映しているのかもしれない。また、太陽も太陽に向かって進んでくるものだけを光り輝かせます。太陽に背を向けては輝くことはできません。だからひまわりは輝き続け、見ている人を楽しませているのだらうと思います。

情報が氾濫している現代、多感な中学生はときにそれに感わされ、押しつぶされそうになります。また、友人関係や進路関係に悩み、何より新型コロナウイルスに関わって学校行事が延期や縮小され、残念で、悔しい思いをしている生徒も多いと思います。しかし、何気ない日常にも大切なことはたくさんあります。明るい笑顔や会話は周りに優しさを広げ、一つ一つ地道に身に付けることが、未来の自分の花を咲かせることにつながります。そのためにも、ひまわりのように明るくたくましく、そして、太陽に向かって堂々と歩んでいく、そんな子供たちを私は育てていきたいと思えます。



北斗市石別地区、本校の校区の良さについて再確認しました。この地の良さをまとめると、静かで落ち着いた環境と地域住民の理解です。

この地に赴任してまだ間もないのですが、実感しています。

本校のある石別地区は、函館市の隣、北斗市の最西端に位置し、日本で初の男子トラピスト修道院があり、童謡「赤とんぼ」の作者である三木露風の住んだ地としても知られています。四季を通して観光客の来訪者も多いのですが、静かな環境は聖域としての雰囲気漂うところです。

また、この地には明治18年に建設され、北海道では4番目に古く、道南では最初となる葛登支岬灯台があります。この灯台は130年以上も津軽海峡の安全を祈りながら点灯し続けていることとなります。

現在の地に中学校があるのは、地域の住民有志やトラピスト修道院が協力して実現したという移転当初の話があり、地域とのつながりには長い歴史があります。

現在は、学校と石別ふれあう会（石別地区の幼児・児童・生徒の健全育成及び町民の安全確保を目的とす

石別の良さに触れて

北斗市立石別中学校 星 正 樹

る組織）や、石別地区観光推進事業実行委員会（石別地区のもつ個性豊かな観光資源を有効活用し、地域全体の魅力向上を図り、観光振興を促進する組織）が、子供と地域住民が幸せに安心して生活できる学校・まちづくりに連携・協働しています。

幼少期にここで暮らし、半世紀ぶりにこの地に帰り、改めて石別地区の良さに気がつきました。静かなトラピストの丘、背後に丸山の緑、前面には津軽海峡の青、どれも昔と変わらない素晴らしい環境が残っています。（懐かしく、朝地域を歩くのが楽しみの一つになっています。）

そして、久しぶりに帰ってきた私に、温かい眼差しで話しかけてくれる地域住民、本当にうれしく思っています。

葛登支岬灯台が、130年以上も、津軽海峡の安全を祈りながら点灯し続けているように、これからも、学校と地域が協働して、石別地区の子供を育て、見守り続けていきたい。

小さな学校で大きな可能性を育てるため、地域とともにある学校を目指して……。



コロナ禍が続く、最近はときが進むことを遅く感じるようになりました。教師として身に付けた体内時計・季節時計に現実との誤差を感じています。

371号に別海中央中の相澤校長先生が寄稿された文中にも「まだ4月なんだと何度思ったことか」という言葉がありました。同じ気持ちの方が他にもたくさんいらっしゃるのではないかと改めて感じました。

これまでの日常が日常ではなくなる日々が続く、ごく当たり前に行われてきた行事や、教育活動の中に埋め込まれていた「価値」や「大切さ」が、改めてクローズアップされた1年でした。

GIGAスクールの取組が、この4月から各地の学校で本格的に始動始めていますが、「言うは易し、されど行うは難し」というのが現状と拝察します。

私の学校でも昨年度の休校時の対応で、ICTを使った学習用教材をいろいろと工夫して作成してみました。中でも数学は、250ページ近くある1年生の教科書の全ページに解説ビデオをつけるという、ちょっと無謀な取組を行いました。

授業の予習や復習に間に合うように、授業の進度から少し先回りして、次から次へと突貫作業で解説ビデ

まだ道半ば

函館市立北中学校 奥 崎 敏 之

オを作成し、教科書のページ番号をクリックすると閲覧できるサイトを作り、生徒に提供しました。

前任校で、平成26年度にICT活用に関わって参議院文教委員会調査室の訪問がありました。そのときお願いしたのは、「不登校の子供や、勉強の苦手な子供たちのために、教科書を解説する教材を作らせてほしい」ということでした。それまでは教科書を解説する教材は著作権上できなかったのですが、昨年度よりSATRUS（授業目的公衆送信補償金制度）が立ち上がり、長い間の夢がようやく叶いました。

でも、実際にこうした教材を使ってもらうには、更に工夫が必要なが分かってきました。ただ教材を分かりやすく解説するだけでは足りないのです。学習する生徒に寄り添って励ましたり、ときには、生徒自身が自分の成長を俯瞰して振り返るようなアドバイスを伝えることがとても大切でした。

私の学校が今年GIGAスクールで目指しているのは、教師を最強のメンターにするツールとしてのICT活用です。「こんなアプリがあれば」「こういった使い方ができれば」…。教師の力をEnhanceする材としてのICTがそこには見え始めています。

第63回北海道中学校長会研究大会 稚内・宗谷大会に向けて (WEB開催)

- 1 **基本主題** 『新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』
～新学習指導要領全面实施，日本のてっぺん稚内から子どもに確かで豊かな資質・能力を育てる学校経営～
- 2 **主催** 北海道中学校長会
- 3 **主管** 宗谷校長会
- 4 **後援** 北海道教育委員会 稚内市 稚内市教育委員会 宗谷管内教育委員会連絡協議会 宗谷公立学校教頭会
稚内市連合父母と先生の会 宗谷管内PTA連合会 公益社団法人日本教育会
公益財団法人日本教育公務員弘済会北海道支部
- 5 **期日** 令和3年(2021年)9月24日(金)
- 6 **開催方法** オンライン (Zoom) 形式
- 7 **大会概要** 開会式，全日中会長情勢報告，全日中提案概要説明，分科会，閉会式
- 8 **全日中静岡大会・提案概要説明**
提案者 中標津町立計根別学園 村上 玄一郎 校長 (根室地区)
網走市立第二中学校 垣内 孝仁 校長 (オホーツク地区)

9 分科会提言

分科会	研究主題	提言者	研究の視点
1	「社会に開かれた教育課程」の実現	【旭川市】(旭川市・広陵中) 千葉 雅樹 校長	「カリキュラム・マネジメント」の推進
2	新たな時代に求められる資質・能力の育成と学習評価の充実	【釧路】(標茶町・虹別中) 蠣崎 浩一 校長	「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した学校経営の推進
3	豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	【渡島】(鹿部町・鹿部中) 後藤 正弘 校長	健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実
4	多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成と働き方改革の推進	【札幌市】(札幌市・北野台中) 安田 仁昭 校長	教職員としての豊かな人間性や指導力の向上
5	家庭・地域や校種間における連携・協働の推進	【空知】(滝川市・明苑中) 鎌田 俊博 校長	学校の教育活動への参画を促す学校経営

- 10 **情勢報告** 全日本中学校長会会長 宮澤 一則 氏

第72回全日本中学校長会研究協議会静岡大会に向けて

1 研究協議会主題

『新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育』

- 2 **主催** 全日本中学校長会 東海北陸中学校長会
- 3 **主管** 静岡県校長会
- 4 **後援** 文部科学省 静岡県 静岡県教育委員会 浜松市 浜松市教育委員会 他
- 5 **期日** 令和3年(2021年)10月20日(水)，21日(木)，22日(金)
- 6 **会場** 第1日 ホテルクラウンパレス浜松
第2日 アクティシティ浜松 オークラクトシティホテル浜松 遠鉄百貨店新館 ホテルクラウンパレス浜松
第3日 アクティシティ浜松

7 分科会 【北海道地区担当分】

<第1分科会研究題 カリキュラム・マネジメントの推進>

- 提案者 中標津町立計根別学園 村上 玄一郎 校長 (根室地区)
網走市立第二中学校 垣内 孝仁 校長 (オホーツク地区)
司会 別海町立野付中学校 小崎 伸人 校長 (根室地区)
網走市立第三中学校 木野村 寧 校長 (オホーツク地区)

8 全体日程

日	時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
第1日	10月20日(水)			受付	会 常 任 理 事 会	中 日 中	受付	全 理 事 会	日 中 会	
第2日	10月21日(木)	受付	開 会 式	文 部 科 学 省 説 明	全 体 協 議 会	昼 食 ・ 移 動	分 科 会			
第3日	10月22日(金)	受付	ア ラ シ ョ ン	全 体 会	記 念 講 演	閉 会 式				

- 9 **記念講演** 講 師 池谷 裕二 氏 (東京大学薬学部教授)
- 10 **7トラクション** 内 容 吹奏楽部演奏
出 演 浜松市中学校選抜吹奏楽団

